

進化 ← 長崎!!

「個性輝く世界都市」「希望あふれる人間都市」に向けて「進化」する長崎。このコーナーでは、重点プロジェクトをはじめとした中・長期的な取り組みをご紹介します！

公共施設をとりまく状況

- 人口の減少
- 施設の老朽化
- 厳しい財政状況

公共施設マネジメントの基本的な考え方

- 1 市民がより多く利用している公共施設へ
- 2 適正な配置と規模で設置している公共施設へ
- 3 効率的・効果的に管理運営している公共施設へ

公共施設マネジメントの主な取り組み

- 施設の計画的な保全
(維持する施設を選択し、安全性の向上に努めます！)
- 施設の統廃合と適正配置
(施設のムダをなくします！)
(いろんな使い方ができる
複合化・多機能化を進めます！)
- 財政負担の軽減
(民間のノウハウを活用したり、
資産の売却・貸付を進めます！)

【問い合わせ】

資産経営室 ☎ 829-1412

時代の「変化」に対応できる公共施設へ

公共施設マネジメント 推進プロジェクト

公共施設のあり方を見直す

長崎市は、これまで学校や公営住宅をはじめとする多くの公共施設を建設してきました。現在、これらの公共施設の半数以上が建築から30年以上を経過し、これから集中的に建て替え・改修の時期を迎えます。

今後、ますます人口減少や少子高齢化が進むことで、利用者が少なくなる一方、市民ニーズが多様化するなど、公共施設に求められる役割も変化しています。また、厳しい財政状況のなかで財源を確保しながら、どのように公共施設を建て替え・改修していくかという課題も抱えています。

そこで、長崎市は、質の高い市民サービスの提供という視点を持って、公共施設を次の世代へ引き継ぐことができるものへと見直す

取り組みとして、公共施設マネジメント推進プロジェクトに取り組んでいます。

暮らしやすいまちづくりを目指して

これまでに、施設ごとの利用状況や老朽化の度合いを評価するとともに、将来の改修や建て替え費用の推計などを行いました。

今後は、学校、子育て施設、コミュニティ施設など、サービス分野ごとにどれくらいの施設が必要なのかを検討し、地区別の公共施設の再配置計画を作る予定です。

公共施設は、地域の暮らしに密接する大切な存在です。地域の皆さんと一緒に考えながら、ニーズに合わせた市民の役に立つ施設へと見直すことで、子どもから高齢者までだれもが暮らしやすいまちづくりを目指します。

みんなで作ろう

自治基本条例

第4回

条例の「前文」…それは、まちへの想い

6月の自治基本条例検討委員会の会議では、条例の「前文」について話し合いました。前文とは、条例の趣旨などを明らかにするために条文の前に置かれる文章で、自治基本条例のなかでも最も「まちへの想い」が込められている部分です。

前文に盛り込む内容について、委員の皆さんからは、次のような意見が出されました。

◆まちの歴史や現状

「長崎の港と外国とのつながり」

「世界平和の希求・発信」

「私たちは長崎を誇りに思っています」 など

◆将来のまちに求める姿

「だれもが安全・安心に暮らし、地域や人のつながりを大切にする」

「おもてなしにあふれ、国際交流が盛ん」 など

◆条例を定める理由

「市民とともに創造・成長し続ける、誰もが住みよい自立したまちを実現する」 など

このような意見を取りまとめ、今後、前文の案を作る予定です。さらに、8月ごろを目標に、前文も含めた条例案を示して、市内の各地域で意見交換会を開催したいと考えています。

市民の皆さんから多くの意見をいただきたいと思いますので、ぜひ、あなたが考える「まちへの想い」をお聞かせください。

【問い合わせ】都市経営室(☎829-1111)